427 昭和11年3月13日 広田外務大臣宛(電報) 在英国藤井臨時代理大使より

専門分科会報告等に関する討議内容について

本 省 3月14日前着ロンドン 3月13日後発

第一三〇号

往電第一二一号ニ関

シ

経過大要左ノ通

一、専門分科会報告LNC一〇A及一一採択一二(十一日、専門分科会報告LNC一〇A及一一採択一二(十一日)

二、本年末前既成甲巡ハ三百基準噸ヲ限度トシ修理又ハ改

米、仏、伊へ暗送セリ
米、仏、伊へ暗送セリ

428 昭和11年3月17日 広田外務大臣宛(電報)

潜水艦使用制限規則に関する英仏案について

本 省 3月18日前着ロンドン 3月17日後発

往電第一三〇号ニ関スル英仏案文左ノ通第一五三号

右ハ何レモ倫敦ニ於テ日、英、米、仏、伊、豪州、加奈陀

ナリ居レリ印度、愛蘭、南阿及新西蘭代表ニ依リ署名セラルルコトト

英案

annex been tained Part IV the said Treaty and set out in submarines with regard to merchant ships conto their accession to said rules as contemplated been possible communicate rules as to action of signed in London on April 22nd 1930 has Limitation and Reduction of Naval Armaments Whereas, ratified by all the signatories, it has hereto to the owing to fact that the other : Powers with a treaty view not not for

And whereas Governments of the French Republic and Kingdom of Italy desire to confirm their acceptance of said rules given in principle by their signature of said Treaty;

in Article 25 of said Treaty;

Undersigned representatives of Governments of French Republic and of Kingdom of Italy

> duly authorized to that effect hereby on behalf of their respective Governments definitely accept and undertake observe said rules with limit of time in manner contemplated in Article 25 of the said Treaty;

And whereas Governments of the Countries which, under the said Treaty of London or in virtue of preceding paragraph are definitely bound by the rules now desire to secure their recognition by as many States as possible;

Undersigned duly authorized Representatives of their respective Governments hereby authorize and request this Majesty's Government in United Kingdom forthwith to communicates and rules, as annexed hereto to Governments of all the States which are not signatories of the said Treaty with an invitation to accede thereto definitely and without limit of time in the manner contemplated in Article 25 of the said Treaty of London.

Signed at London, the day of 1936 仏案

Article 25 of the said Treaty; view to their accession thereto as contemplated of the said Treaty to the other Powers with possible ratified by in London tion and Reduction of Naval Armaments signed Whereas owing communicate all the signatories it has not been on 22nd đ fact that Treaty for Limita-April 1930 rules contained in Part IV has not been Ξ. а

Ħ, of cation; declare whereas the said Treaty Whereas Governments this ratifying said Party that they will accept this partial ratifi partial ratification the other Governments concerned hereby hereby IV in the near future, declare their intention which have not ratified is accepted, and

Whereas all the Governments in respect of which this instrument is signed desire to secure

> recognition by as many states as possible of rules contained in said Part IV as established rules of international law;

without an invitation to which annexed hereto to Governments of and request his Majesty's Government in United Kingdom forthwith communicate said rules as of their respective Governments hereby authorize Undersigned, duly authorized representatives are limit of not signatories times accede thereto definitely of said all the Treaty State and with

米、仏、伊へ転電セリ

昭和11年3月17日 広田外務大臣宛(電報)

429

経緯について 潜水艦使用制限規則に関する英仏案文の作成

本 省 3月18日前着

第一五四号

往電第一五三号ニ関シ

日 テ 倫敦条約第四編ノ 約第二十五条第一項所定ノ条件実現セサリシカ為ナルカ故 力 案ヲ送付越シ右案ハ未タ決定案ニ 日接到)ヲ以テ「クレー N 留四国殊ニ 付寺崎ヨリ 異議アル ν = 加入国拡大ノ手続ヲ執ラサリシハ仏伊ノ無批准ノ結果同条 ハ 立チ米国側態度ヲ尋ネシメ = ニ通報セサリシハ未確定案ヲ御覧ニ入ル 「本政府 、我方 ハ 自ラ別個ノモノナルノミナラス英国側ニ於テ今日迄同編 ニ於テハ入手シ度キ旨申入 英ヨリ日米ニ対シ右三国以外ノ加入勧奨方委任ヲ 期限ニ定メ無ク有効ナルモノニシテ同条約ノ他ノ 過キスト認メ御遠慮 之三 7 態度ヲ尋ネタルニ付寺崎ハ同人ノ知ル限リニテ 模様ニテ何時モ 応シ差支ナシトノ意向ナ ニ於テモ現行規定ト 英仏間ニ何等カ案文ニ付非公式乍ラモ商 「ホル マン」ニ対シ縮第七三号ノ次第モ 問題相当進捗シ居レリト セ 乍ラ文句多キ連中ナリト苦笑シ ル ギ タル --= ニ過キスト申添へ来レリ之ニ先 同 V 処米国側トシテハ元来同編 タル処十六日付書面 -----) ハ IJ ルモ仏国側 アラス早キニ及ヒ モ 本官宛要領別 ノニ他国ノ ルモ - 認メラレ 貴方ヲ煩ハス ニテハ何等 、参加 電 求メ 部分 「議中ナ アリ タ ブ如キ (十七 我方 ヲ ル 次 来 ,残 求 ハ = 力 1

申進ス 仏ニ取リ一進歩ナルモ不可分ノ一条約 ンヨリ 趣ナリ其ノ後「ク」ヨ 准 = ハ ヲ述ヘラレ 本側ニ於テハ右通報ニ対シ単ニ外交手段ニ依リ異議ナキ旨 Ի 准スルカ為ニハ先ツ右条約全体ヲ批准 **慂シツツアリシ英国カ本編ノミノ批准ヲ認ムル** 反対シ今日ニ及ヘル次第ナリ初メ倫敦条約全体 ル ズ」ヲ往訪 ム 「ク」ヨリ 依レ モ仏ト 思考セスト述ヘタ ノ見解ニテ ヲ要セサル ル ニ異議ナキ ハ二十四日頃調印ノ予定ナリ ハ決定案文作成後直ニ日本側ニ送ルヲ可ト シテハ同案ニ異議アルヲ以テ不確定ノモ ر ۲ ν セシメタ ハ足ル コトト 本件案文モ結局右趣旨ノ仏案ニ落着クヘシ日 」ニ対シ日本側へ英案通報方ヲ求メ来リタ ヤニ思考ス但シ便宜ノ問題トシテ更メテ 次第 ル処「ド」、実、 三月十日 ス ル趣ナリ尚 リ前 ルコト可ナル パニテ別 顕 関 係 文書接到即 ٦ ۲ ニ新タニ Ļ ト ハ勿論ナリ ノ寺崎ニ ノコト セ 1 ル国 特定部分ノミヲ批 批准手続ヲ要 = ノ同意ヲ要ス ,ト述へタ 述ヘタ ニ至リ じ、批准 日 一ド 付右不取 日付ヲ以 ·スヘシト ノヲ送ラ ロヲ慫 ル シ フ え テ I 批 敢 所 Ի ハ ル

5 会議脱退後における諸交渉

米

仏

伊

~

転電

セ

1]

宮口1 三 5 月 9 月
電報)
ベレ確定案文に対する日本則の意見を急承知潜水艦使用制限規則に関するプロセ・ヴェル
ンドン 3月19日
本省3月20日前着
第一五九号
往電第一五四号ニ関シ
寺崎「ドルーズ」会談ニ依リ会議モ漸ク終局ニ近付キタル
コト明カトナリタル関係モアリ潜水艦使用制限規定ニ関ス
ル案文協定其ノ後ノ進捗振ヲ更ニ確メ置クヲ要スト思考シ
本官十九日午前「ク」ヲ往訪セル処「ク」ハ条約起草委員
会ハ本週中ニ終リ二十三日第一委員会二十四日調印ノ予定
ナルカ本件決定文(往電第一五八号)モ漸ク出来他ノ関係
国モ異存ナシト了解シ居ルニ付テハ日本政府御意見ヲ早メ
ニ承知致シ得ハ幸甚ナリ御同意ノ際ハ二十四日貴方ノ調印
ヲモ得度ク切望ス尤夫迄ニ間ニ合ハサレハ若干延期ノ外ナ
キモ実ハ米国側ハ二十六日出発ノ筈ナルヲ以テ其ノ後ハ関
タルニ「ブレムナー」ハ右ニ了解スト申シ居リタル趣ナリ
米、仏、伊へ暗送セリ
4.1 し
43 昭和11年3月21日 広田外務大臣宛(電報)
潜水艦使用制限規則に関するプロセ・ヴェル
バル確定案の修正字句について
本 省 3月22日前着ロンドン 3月21日後発
往電第一五八号ニ関シ
決定 procès-verbal(「ドミニオン」以外ハ同意)ハ冒頭
電ヲ左ノ如ク修正セルモノナリ尚第一委員会二十一日会合
クハ特情第五一号参照
一、rulesト contained in part IV ノ間ニ as to action 第一項一、Z2nd. Aprıl ヲ Aprıl Z2nd. トス
egard to merchant ship
入
III' accession thereto \neg accession to said rules $+ \varkappa$ 1
5 第二項ヲ and whereas governments of French Repub-

430

昭和11年3月19日

広田外務大臣宛(電報) 在英国藤井臨時代理大使より

5 会議脱退後における諸交渉

lic and	lic and Kingdom of Italy desire to confirm ac-	of	Italy	desi	re	ö	confirm	ac-
ceptanc	ceptance of said rules resulting from signature of	rules	resul	lting	fro	Ĭ	signature	of
said tre	said treaty; 小改 4							
第三項削除	除							

第四項初 all governments 以下 as possible of 迄ヲ削除シ其ノ代リ signatories of said treaty desire that as great a number of states as possible should accept ヲ挿入シ以下前電ニ同シ

第五項 United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland ヲ単ニ United Kingdom トス 米、仏、伊へ暗送セリ

43 昭和11年3月2日 広田外務大臣宛(電報)

規則に関するプロセ・ヴェルバル案文送付越仏伊代表より我方及び英米宛潜水艦使用制限

について

別

仏伊代表より日英米代表宛案文務大臣宛電報第一七六号

本 省 3月22日前着ロンドン 3月21日後発

542

第一七五号

米、仏、伊へ暗送セリ 日英米代表ニ送付セラルヘシト了解スト付言シ居レリカ右ハ本件 Procès-verbal 署名数日後仏伊代表ヨリ夫々右案文ト同時ニ「ホールマン」ヨリ別電案文ヲ送付越セル往電第一七四号ニ関シ

劎

Londres, 21 p.m. Mars Reçu, 22 a.m. Mars 1936

Gaimudaijin, Tokio No. 176 (Betsuden)

J'ai honneur confirmer à Votre Excellence l'intention Gouvernement République française de procéder à ratification de partie IV Traité Naval signé Londres 22 avril 1930.

Gouvernement République est entré dans cette intention en considération du fait que dans ses

autres parties ledit traité viendra à expiration fin présente année.

其ノ旨ノ確認ヲ与ヘラル

ルヲ得ハ感謝ノ至ニ不堪候

Espère que dans ces conditions Gouvernement Japonais n'aura pas d'objections à cette manière procéder et je vous serais obligé de m'en donner confirmation.

米、仏、伊へ暗送セリ Fujii

(右訳文)

キ書翰案(仮訳)

実ヲ考慮シタルニ依ルモノニ候記条約カ他ノ部分ニ関シテハ本年末ヲ以テ満了スヘキノ事記条約カ他ノ部分ニ関シテハ本年末ヲ以テ満了スヘキノ事光栄ヲ有シ候右共和国政府ガ右意思ヲ懐クニ至リタルハ前ンドン」ニ於テ署名セラレタル海軍条約第四編ヲ批准セン以書翰啓上致候陳者本官ハ千九百三十年四月二十二日「ロ

対シ異議ヲ有セザルヘキコトヲ希望スルト共ニ本官ニ対シ本官ハ右ノ情況ノ下ニ大日本帝国政府ニ於テ前記ノ措置ニ

435 右申進旁本官ハ玆ニ重ネテ敬意ヲ表シ候 往電第一七四号ニ関 第一七七 昭和11年3月23日 国側意向について バ 潜水艦使用制限規則に関するプロセ・ヴェル ルを海軍協定とは別個の形としたいとの英 号 シ 広田外務大臣宛(電報) 在英国藤井臨時代理大使より 本 ロンドン 省 敬具 3 月 3月23日後発 74日前着

米 出来得ヘクンハ二十五日中ニ調印致シ度キ希望ヲ有シ居ル 英国側ハ我方脱退ノ事実ニモ鑑ミ本件 オン」側ニ反対万ナカル 省係官ハ寺崎ニ其ノ後ノ ニ付テハ何分ノ儀至急御回電アリ度シ尚二十三日午前外務 ヲ今次海軍協定トハ別個ノ形ヲ為スニ留意シ居レルカ一方 仏 伊 へ暗送セ ŋ \sim 形勢ヲ見ルモ本件案文ニ シト思考ス ト述ヘタル ー プ ロ セ べ 趣ナリ 「ドミニ ル バ ル

43 昭和11年3月24日 広田外務大臣宛(電報) 在英国藤井臨時代理大使より	、確定案文着二十一
潜水艦使用制限規	~
ルの署名につ	与ヲ受ケタル次第ナルニ付出来得ヘクンハ同人ノ二十六日文ヲ受クタルモ二十三日ニテ急キ華所ヨリーテ」 気権限付
り打診について	出発迄ニ日本側モ署名出来得レハ好都合ト
本 省 3月25日前着ロンドン 3月24日後発	スト述ヘタル趣ナルカ次テ「ドルーズ」ヨリモ仏側ハ本件
	ロセヴエルバル」ヲ今次会議外ノモノトシ従テ二十
八二号	ニテ署名
貴電第三九号ニ関シ	ニ署名シ度キ意向ナル処日本側ハ何日頃御署名ノ見込ナリ
二十四日「クレーギー」往訪御来示ノ次第ヲ申入レタル処	ヤト問ヘルニ付寺崎ヨリ貴電ノ次第ヲ説明シ何ノ途明日ノ
同人ハ各国ノ加入ヲ求ムルコトニ帝国政府ニ異存無キハ誠	署名ニハ間ニ合ハサルヘシト答ヘタル趣ナリ本件「プロセ
ニ欣幸ナリ且又本件「プロセヴエルバル」ノ研究ヲ必要トセ	ヴエルバル」ニ付種々御研究ノ要アルハ推察シ得ルモ根本
ラルルハ「アンダースタンダブル」ナルモ本件案文ハ米国側	点ニ御同意ナルニ於テハ之ヲ今次海軍協定トハ別個ノモノ
ニ於テモ上院ノ批准ヲ必要トセサル形式ヲ希望シ種々研究	トシ居ルニ鑑ミ二十六日中ニ署名為シ得ハ問題カ主トシテ
ノ結果到達シタル結論ナルニ付出来得レハ同人出発迄ニ間	形式上ノ問題タル丈ケニ(尤政府トシテハ形式上ノ問題タ
ニ合ヒ得レハ幸甚ナルモ夫迄ニ間ニ合ハサレハ成ルヘク早	ルカ故ニ種々御配慮ノコトトハ存スルモ)一般的ニ観テ何
目ニ同意方希望スト述へ居リタリ 次テ同日 午後 三時頃 米	カト得策ナリト存スルニ付至急御詮議ノ上何分ノ儀御回電
「レバー」ヨリ電話ヲ以テ我方態度ニ付問合セ来レルニ付	相成度シ
寺崎ヨリ御来示ノ趣旨ヲ答へ我方カ本件未確定案文ノ通報	
_	
437 昭和11年3月2日 広田外務大臣宛(電報)	伐方ノ見解ニ抜レバ本牛ハ手売問題トンテハ今態々「プロ往電第四二号ニ関シ
バル署名に関する我方の措置振り及び回答案潜水艦使用制限規則に関するプロセ・ヴェル	国、/ 加秀戸心とり用言とザレドコラザレル」ナル特別ノ文書ヲ作成シテ仏伊ノ受諾
について	題トモ認メラレズ仏伊未批准ノ為メ二十五条ノ実施ニュシュイニー、「私言」ですない。
本 省 3月25日前着ロンドン 3月24日後発	おおり ビヨーー ひへい なぜん ちじー しませい リーナイ 可能ナラバ二十二条末項ノ運用ニ依リ現実ノ締約国タル日
第一八四号	第四編ニ加入方勧誘スルコトトシテ充分ナリト認メ苦ル次考シ、三星ミュアスなど大家シナジョンになる
往電第一七五号ニ関シ	ス
来信ハ海軍条約署名後我方ノ潜水艦関係「プロセヴ	モ
署名前ニ接到ヲ見ルヤ	月一日ヨリハ二十二条ノミ残存シ而モ同条末項ノ同意ノ表
そ、云重な	明ハ結局加入ノ外他ニ方法ナキ次第ナレバ仏伊ガ加入スル
4 伊 米へ車電セリ	フィンバント こうこう いんしょう マンコーク 何等差支ナシト思考ス) 而シ此ノ 際強 ヒ
43※昭和11年3月25日 在英国藤井臨時代理大使宛(電報)	手続上困難アル新国際約束ノ形ヲ避ケ二十二条末項及二十一一フロセ・ヴエルバル」ヲ作成セントスル儀ナラバ我国内
潜水艦使用制限規則に関するプロセ・ヴェル	五条ノ拡張解釈ニ依リ現行条約ノ実施問題トシテ取扱フコ
	トトシ右ノ見地ヨリ案文モ別電第四四号ノ通修正致度ク将
本省3月25日後発	、、ふぎ豆…可見がよ、目り…臣…見ふ目、引,貴電第一七六号仏伊ヨリ我方ヘノ照会モ右ノ見地ヨリ
暗第四三号	レバ不必要ニシテ仮ニ両国ガ其ノ国内手続上関係国ノ同意

5 会議脱退後における諸交渉

5 会議脱退後における諸交渉

米 仏 伊へ 眠 送 セ リ	に申入れについて
人レ置キタリ其ノ	ルの決定案受
受諾困難ナルヘク何レ明二十七日軍	潜水艦使用制限規則に関するプロセ・ヴェル
」ノ形ヲ採ルトスルモ本邦側ニ於テ現在ノ形式其ノ	44 昭和11年3月26日 広田外務大臣宛(電報)
ル旨述ヘタルニ付已ムヲ得ス「	~~
容ニ付テハ米国上院及日本枢密院	、伊ニ暗送
熱心ナル希望ニ依リ「プロセベルバル」作成ノコトトナリ	
個ノモノタルコトヲ更メテ確言シ本件ハ主トシテ仏伊側ノ	尚本官ハ二十六日正午「ク」ヲ往訪貴電第四三号ノ次第ヲ
二号)アリシヲ遺憾トシ且本件カ今次軍縮協定トハ全然別	必要ナル権限ヲ与フル様手配スヘシト述へ居リタル趣ナリ
印刷ノ分ニ趣旨ニ変更ナキモ些少ノ字句修正(別電第一九	ル)何レニセヨ米代表部ハ明日引揚クルニ付米代理大使ニ _
種々事情ヲ語リ決定案文送付ノ遅延及最後ニ送付越セル右	会ニテ明ルミニ出ス迄ロヲ拭ヒ居リシモノナリ ト 推 セ ラ
キ形式ニ依ラサルコトヲ希望スル旨強調シタル処「ク」ハ	申合ニ別日署名ヲ内々希望シ内示ニ反対シ十五回第一委員
段ノ趣旨ヲ申入レ日本側トシテハ「プロセベルバル」ノ如	若干関係アルハ往電第一五四号ノ通ニシテ軍縮協定ト本件
二十六日「ク」ヲ往訪(寺崎随伴)貴電第四三号御来示前	ナリ(仏カ
往電第一八八号ニ関シ	ニ対スルト同様申入レタルニ同人ハ此ノ場限リトシテ率直
第一九一号	ヲ取付ケ米「
本 省 3月27日前着	以テ本件公文送達、同人帰仏後ト雖(二十六日午前発)当
3 月 26 日後	本側ハ修正意見ヲ有シ今明日中ニハ到底署名不可能ナルヲ
配慮ヲ深謝スト述ヘタル趣ナルカ右ノ後「ドルーズ」ニ日	
ト述ヘタルニ対シ「ゴ」ハ日本側御事情ハ能ク了解シ其ノ	別電ト共ニ米、仏、伊ニ転報アリタシ
通り(往電第一五九号)普通外交手段ニ依ルコトトスヘシ	就テハ以上ノ次第可然英側ニ申入レラレ結果回電アリ度シ
拘ラス斯ル次第トナレルニ付今後ハ「ク」カ藤井ニ述ヘタル	尚本件ハ今次軍縮協定トハ全然別個ノモノト了解ス
文送付方如何ニモ遅カリシ為日本側トシテ手ヲ尽シタルニ	ムヲ得ザルコトト思考シ居ル次第ナリ
ニハ署名不可能ナリ種々事情ハアリタランモ英側ノ決定案	如キ意見ヲ申入ルルハ不本意ナルモ右様ノ事情ニモ鑑ミ已
ハ本件ニ関シ申入レ度キ意見アル由ナルニ付「デ」出発迄	憾トスル所ニシテ我方トシテモ案文殆ド確定ノ今日前記ノ
承知セサルモ(当時貴電第四三号未接到)日本政府ニ於テ	十五日ニ署名セントスルガ如キハ手続問題トシテモ頗ル遺
本日署名可能ナリヤト重ネテ問ヒ来レルニ依リ詳細ハ未タ	チ」ノ結果始メテ案文ヲ呈示シ且全然余裕モ置カズシテ二
二十五日午前冒頭貴電接到直後「ゴレブース」ヨリ寺崎へ	拘ラズ我方ヲサシ置キ我方ニ対シテハ貴官ヨリ「アプロー
貴電第四二号ニ関シ	アリ本件ハ先ヅ以テ三国間ニ協議セラルベキモノナルニモ
第一八八号	本来倫敦条約ノ現実ノ締約国ハ日英米三国ノミナル関係モ
本 省 3月26日前着	々斯カル方法ヲ執ルコトハ避ケ度キ次第ナリ
	鑑ミ右ノ如ク条約ノ実施トシテ処理シ得ル問題ニ付
について	新国際約束トシテ枢密院へ御諮詢ヲ要スベキモノナ
により即刻署名不可	交換ノ方法ニ依リ部分的批准ヲ別個ニ承認スルガ如キハ本・巨ノ部分的批准ヲ承認スルモノト誹ヒ得ヘキニ付務更文書
我が方より潜水艦使用制限規則に関する意見	邵子勺比隹ヲ承忍スレモノト胃ニ导ドキニロセ・ウエルハル」ニ署名スルニトニ依リ
43 昭和11年3月25日 広田外務大臣宛(電報)	コマ・グロレベレー=暑石スレコト=枚)褐糸国、要トスル=於テモ confirm acceptance 云々トア
	•

546

二項 条約 authorized 等ノ字句削除ヲ求ムルモ同 一理由ニ ル協定署名ノ形式ヲ避ケントスルモノニシテ本件ヲ倫敦 シヲ以テ右ニハ反対ナリ累次述ヘタル通り我方ハ新タナ 答フ)已ムヲ得スンハ第二十五条ノ代リニ第二十二条第 キ筈ニテ況ヤ我方ノ寄与ヲ容易ナラシムル 述へ当然タル程明白ナル慣用句ナレハ キモノヲ承知セス右字句ノ如キ (此ノ時 Ξ ノ解釈又ハ適用的事項トシテ取扱フ所存ニテ 「レフアー」シテハ如何ト提案ス Fitz Maurice ヨリ国際約定ニ右字句 ハ当然ノ儀ニアラスヤト

削除シテモ差支無

挿入無

duly

一依ル

ニ於テヲヤト

当乗気(ノ)勢ヲ示シ

Fitz Maurice

モ必スシ

・モ反対

セサリシカ転シテ本字句ヲ全ク抹消シテハ如何ト提案セ

シハ明カナラスヤト答へタル処「クレーギー」ハ右ニ相

ラ以テスルハ如何少クトモ本件加入ノ予見セラレ

句

タ

リト述へ(此

ノ点相当理由アリ) タルニ対 シ

然

2 ラ

字 ハ

と居り

contemplated ノ代リニ foreseen 又ハ之ト類似

二、右ニ対シニ箇条ノ趣旨ハ異リ第二十五条ノ規定ハ 三、右ノ如ク別段纒 右政治的 要スル儀ニモアラサレハ英側 現在ニテハ本件規定ヲ倫敦条約中ニ 依リ第二十二条ハ加入勧奨ノ原則ヲ示シ第二十五条ハ 故ニ只今迄延引セリヤトノ非難ヲ受クヘシト述ヘタ 且確定的ナルヲ以テ第二十二条ノミヲ引用スル 必スシモ非難ノ意味ニハアラサルモ決定案ノ提示ヲ遅ラ 基クモノニシテ第二十五条第一項ノ明白且確定的ナル 本規定ヲ華府当時ノ如ク別個ノモノト ト思考スト答フ ト セ乍ラ今又右ノ如キ 可分ニセル ル手続上ノ 具体的方法ヲ示ストノ理由モ立ツヘク且御承知ノ如ク 述ヘタル 考慮ノ多分ニ含マレ居ルニモ依ルト解シ得 ニークレ 問題タル ハ仏トシテ全体的批准ヲ行ハシメントセル 7 IJ 1 我方主張ヲ理解 意味合アル同条ノ規定ニ拘泥シ単ナ タ ギ ル結果ニ達セ ー」ハ事情ハ洵ニ ノ希望ニ依リ 挿 マサル サ 入 セス倫敦条約 ŋ セ ハ不可解 其 Ý 其 ル ハノ通ナル ノ攻究ヲ行 モ ヲ失 1 特 飯 + ニ急ヲ 明白 ナリ ヘシ 1 N + ハ ij 其 モ ハ Ξ 不 Ξ 何

確定文ヲ送付越セル処右ハ同人書翰中 = 釈明ノ如ク辞 Powers ト改メ - シ第三項 初 句 X = 往電第一九一号ニ 第一九五 一、二十七日「クレーギー and 第二十五条所定ノ批准ナカリシカラコソ本件必要ヲ生シ contemplated ヨラ 同席)往訪(寺崎随伴)御来示ノ対案ヲ示セル処第 verbal ノ必要ナル所以ヲ揭クルモノナリ ト 駁 シ 結 局 ニシテ両者ハ密接ナル関係アルノミナラ ス リト述ヘタルニ付説明的価値ヨリハ事態ノ明瞭コソ必要 ヲ同一項ニ連ヌルノミナラス原案ニ比シ説明的価値小ナ ノ and ヲ以テ繫ク前後両段ハ必スシモ連絡ナキ二事項 ノ後ニwhereas 号 関 3 treaty ヲ付加スル 」(法律専門家 コトニ Fitz Maurice 本 Procès-

April 22nd ヲ 22nd April -

二項

第一項

些少ノ修正ナルカ左ノ通り

第一

九二号

其ノ後「クレ

1

ギ

Ì

· 」 ヨリ

,印刷

二付

セ ル

Procès-verbal

郵送ス Procès-verbal ノ次ニ rules 第一項(1及)コ東ノ儘記載ス尚調印式当日「ク」カ本官 夫々加へ第三項及第四項中ノ states ヲ ノ後 Signatories ノ前ニ all ヲ、第四項 United Kingdom 手交セル英米均等継続及建艦競争回避ニ関スル交換文書写 ~ ್ತೆ Great Britain and Northern Ireland n トシテ倫敦条約第二十二条

仏 伊 \sim 暗 送 セ 1]

> 昭和11年3月27 日 広田外務大臣宛(電報)在英国藤井臨時代理大使より

441

昭

和

11

年3月26日

広田外務大臣宛(電報)在英国藤井臨時代理大使より

442

プ ク

П Ĺ

セ・ ł

ヴェル

バル確定文送付越について

ロンドン 本

省

3月27日前着 3月26日後発

¥

Ĺ

より潜水艦使用制限規則に関する

バ 潜水艦使用制限規則に関するプロセ・ヴェ ルの字句修正をめぐるクレーギー -との討 議 ル

内容につい t

本口 ンド 省 2 3月28日前着

迄ノ字句ハ不正確ニシテ 落着キ末項

as

定及

1

ザン」最終議定書ハ何レモ duly authorized

(尚海牙賠償協

迄ニ御垂示請フ)

ノ語ヲ使用シ居ル

処右ハ

枢密院

ニ御諮詢ア

13

ģ ij

ヤ

- 参考

ハシムルコトトシ会談ヲ終レル

置クへ

キ点アラ

ハ折返シ御回示相成度ク尚仏米ニ対シテ

カ我方修正箇所ニ付心得

御舎置請フ (443) 米、仏、伊ニ暗送セリ 御舎置請フ (443) 米、仏、伊ニ暗送セリ ※、仏、伊ニ暗送セリ (11年3月28日 (11年3月28日 ※ (11年3月28日 (11年3月28日 ※ (11年3月28日 (11年3月28日 (11年3月28日 (11年3月28日 (11年3月28日 ※ (11年3月28日 (11年3月28日 (11年3月28日 (11年3月28日 (11年3月27日 (11年3月28日 (11年3月28日 (11年3月27日 (11年3月28日 (11年3月28日 (11年3月28日 (11年3月28日 (11年3月28日 (11年3月28日

pire リタル IJ 且 ナラス英語トシテハ英新案ノ方正シト答フ ニハ未タ拘束サレサルカ故ニ日本案ハ之ヲ来年元日 キ次テ英新案第二項ニ今年末日 方ニ於テモ必要ニ応シ関係国ト直接折衝シ得ル様為シ置 ハ如何カト注意セル処今般ハ会議終了後ノコトニテモア 彼等ト連絡スヘシト述ヘタルニ付何レ案文ヲ東京ニ報告 及他関係国ノ本案ニ対スル意向承知ノ必要アルニ付早速 ルモ日本側御要求ニ応シ斯ク起草セリ「ドミニオンス」 ノニシテ同人トシテハ四国決定ノモノヲ可ナリ 一条二 同人ノ言ノ如ク英新案ニ対スル各国ノ意見ハ未タ予 事情稍異ルニ付右ニテ可ナリヤニ思考スト述へ結局我 研究ノ上委細申述フヘキモ貴方ノ英仏妥協案ニ付テ執 トセリト述ヘタルニ右ハ minor point ナ refer ト同様先ツ日英決定案ヲ作リテヨリ他ト接触シテ シ duly authorized ノ語ヲ削 expire トアル ト思考ス 除セ モ右期日 ル ノミ ex-N モ 断

550

スル本官宛御電訓写ヲ英側ニ交付スルコトニテ充分ナリモ我方希望ニ副フ趣旨ヨリ本官調印権限付与ハ調印ニ関ルニ付至急御詮議相願度ク尚本件調印其ノモノノ形式ヲ、 同人ノ言ノ如ク英新案ニ対スル各国ノ意見ハ未タ予断

米、仏、伊へ暗送セリト申添へ居リタリ

(別 電)

London, March 28th, p.m. Received, March 29th, a.m., 1936. Gaimudaijin, Tokio.

No. 198 (Betsuden)

Procès-Verbal.

Whereas the Treaty for the Limitation and Reduction of Naval Armaments signed in London on the 22nd April, 1930, has not been

ratified by all the signatories;

international law, and remains in force without merchant ships as of Part IV thereof which sets forth rules 5 the 31st December, And the whereas section of the said Treaty will expire submarines being established rules 1936, with the with regard exception of as g đ

limit of time;

And whereas the last paragraph of Article 22 in the said Part IV states that the High Contracting Parties invite all other Powers to express their assent to the said rules;

And whereas the Governments of the French Republic and the Kingdom of Italy desire to confirm their acceptance of the said rules resulting from the signature of the said Treaty:

And whereas all the signatories of the said Treaty desire that as great a number of Powers as possible should accept the rules contained in the said Part IV as established rules of international law:

The undersigned, Representatives of their respective Governments, bearing in mind the said Article 22 of the Treaty, thereby request His Majesty's Government in the United

催国側一員トシテノ希望アリシニ外ナラストテ頻リニ弁 355	Gouvernement Japonais n'aura pas d'objection
御同意ヲ得ルニ間ニ合ハハ何カト好都合ナリトノ会議主	依テ右日本側御都合ニモ鑑ミ仏案文末 段 ヲ espere
verbal ニ関シ我方調印方ヲ照会セルハ万一日本政府ノ	Déleuze 寺崎会談参照)固執スヘキハ想像ニ難カ ラ ス
シ且右遅延ニモ拘ラス海軍条約調印間際本件 procès-	ヲ好マサルモ仏ノ国内手続ノ必要上(往電第 一 五 四 号
ト共ニ我方ニ案文通報方遅延ニ対スル累次ノ釈明ヲ繰返	入レ置キタル処「クレーギー」ハ実ハ英トシテモ右文書
協力ニ対シ日本政府ニ深甚ナル感謝ノ意伝達方ヲ求ムル	新ナル国際協定トナルヲ以テ避ケ度キ次第ヲ更ニ為念申
ニ関スルモノノミナリ尚「クレーギー」ハ本件ニ関スル	ノ運トナルヘキ処往電第一七五号仏伊ノ文書交換要求ハ
言及セル条項ナク潜水艦ニ関シテハ其ノ質的制限及処分	三、仏伊ハ自治領等ト同時ニ本件 procès-verbal ニ署名
五、本件 procès-verbal 以外新条約中ニハ潜水艦規則ニ	ト <u>ス</u>
写交付ノ必要アルニ付英文ニテ願度シ	二、第四編ノH及臼ノ次ニ signed in London1936
報アリ度シト述へ置キタリ尚本官署名方御電訓ハ英側ニ	December 1936 と定メタリ
ナリ本日ノ案文ニ他国ノ同意ヲ得タル上ハ速ニ其ノ旨通	ヲ参酌シ一応 cease to be in force after the 31st
右ハ前記一ニ付政府ノ同意ヲ要スル次第ニモアリ不可能	一、懇談ノ結果我方対案第二及倫敦条約第二十三条第一項
レハ他関係国説得ニモ何カト好都合ト存スト述ヘタルモ	二日「クレーギー」往訪(寺崎随伴)経過左ノ通
置ケル処「クレーギー」ハ本日ノ協定案ニ付御裁可ヲ得	貴電第四九号ニ関シ
四、案文確定スルモ我方ニテハ御裁可ノ要アル点ヲ注意シ	第二〇七号
ヘク説得ヲ依頼シ置キタリ	本 省 4月33日前着
モ右ニハ何等確答ヲ与ヘス仏側ニ本文書発送見合方然ル	ンドン 4月2
バル案文につきクレーギーとの会談について	ヲ除キ一九三六年十二月三十一日ヲ以テ効力ヲ失フニ依リ
潜水艦使用制限規則に関するプロセ・ヴェル	艦ノ行動ニ関スル規則ヲ揭ケタル無期限ニ有効ナル第四編
44 昭和11年4月2日 有田外務大臣宛(電報)	又右条約ハ国際法ノ確立セル規則トシテ商船ニ対スル潜水
	依リテハ批准セラレサリシニ依リ
ス	タル海軍軍備ノ制限及縮少ニ関スル条約カ一切ノ署名国ニ
「アイルランド」連合王国ニ於ケル皇帝陛下ノ政府ニ要請	千九百三十年四月二十二日「ロンドン」ニ於テ署名セラレ
ノ政府ニ通 報 センコトヲ「グレート・ブリテン」及 北 部	
招請ト共ニ右規則ヲ直ニ右条約ノ署名国ニ非サル一切ノ国	日英間ニ合意ヲ見タル「プロセ、ヴェルバル」案
シ玆ニ別添右規則ニ確定的ニ且無期限ニテ加入センコトノ	
各自ノ政府ノ代表タル下名ハ条約ノ前記第二十二条ヲ銘記	Fujii
キコトヲ希望シ居ルニ依リ	Futu, Yi, Bey ye ansooseri.
掲ケラルル規則ヲ国際法上ノ確立セル規則トシテ受諾スへ	out limit of time.
又右条約ノ一切ノ署名国カ成ルヘク多数ノ国カ右第四編ニ	invitation to accede thereto definitely and with-
ル右規則ノ受諾ヲ確認セント欲シ居ルニ依リ	are not signatories of the said Treaty, with an
又仏蘭西共和国及伊太利王国ノ政府カ右条約署名ノ結果タ	To the Governments of all the Powers which
ニ依り	Annexed hereto,
シ前記規則ニ其ノ同意ヲ表センコトヲ勧誘スル旨ヲ揭クル 55	forthwith to communicate the said rules,
又右第四編第二十二条ノ末項ハ締約国ハ他ノ一切ノ国ニ対.2	Kingdom of Great Britain and Northern Ireland

ニテ打切リ返事ヲ要セサルコトトシテハ如何ト述ヘタル

553

解シ居リタリ就イテハ右一及仏ノ文書交換ニ徹頭徹尾反

本 パ 省 ŋ 4月12日後発 4月13日前着

ル案文に対する仏国の態度につい τ

バ

潜水艦使用制限規則に関するプロセ・ ヴェ

ル

昭和11 年4月 12 日 有田外務大臣宛在仏国佐藤大使と (電報)

446

仏へ転電シ ж 伊 \sim 暗 送セ IJ

三、政府御見解ハ累次ノ御訓令ニ依リ ル テハ仏文書対案御詮議願へ間敷 ル場合ニハ我方トシテ部分的批 送付ヲ求ムルハ相当同情ノ余地アリ 国側カ等シク国内手続ト推セラルル見地ニ基キ本件文書 々迄已ムヲ得ス署名延期方申入ル 准ノ問題起ラサ キャ右御承認ヲ得ラレサ ル ヤニ認メラル 充分了解シ居ル ノ外無キヤ ニ存 ル来年早 ルニ付 セ Ŧ 仏 ラ

書其ノモノヲ断念スヘシト ラ ヲ ニ存 ル 得度シ尚余一己ノ思付トシテ内密ノ御参考迄 ハ如何 次第ナル マセラル 1 カ其ノ際本件文書ニ対スル対案ヲ出 ルニ付巴里ニテ御話願フト共ニ当方 モ存ス何レニセヨ自分ト ハ思ハ レスト述ヘタ シテハ仏政府カ本文 ij 三申 サ ニ御通報 ν タ · 述フ ナ

モ英側ハ 更ニ政府 ル テ サル 件文書受領ヲ御承諾願へ間敷 意スル次第ニモアリ今ヤ返事ヲ要セサル形式トナレル 十二条ニ代 必スシモ同一ナラサルモ趣旨ニハ変更無シ)ト修正ス カ即座ニ起案シロ頭ニテ其ノ「ライン」ヲ述ヘタル ル リ仏ハ仏側ノ重要視セシ第二十五条「レフアー 論ヲ再開スル サ 申述ヘタル通り 「パラグラフス」ノ順位ニ付テモ修正意見ヲ申送リタ ニモ異議無キモ日英折 ratify part 4 ニ日本側ノ御都合ヲ考ヘ前述同意ヲ取付 ኑ 意見一致ヲ見ス ハ実体ニ関係無キ形式ノ問題タル本文書 ル様注意スヘシトアリ ヘク此ノ点既ニ 「クレ ノ我方見解ナルニ依リ 日本側ト漸ク妥結ニ達シタル案文ノ順位ニ付議 シ 、固執ス へ其ノ他万事日本側ノ御趣旨ニ副 ノ意無シトノコト故沈黙シタル 「プロセヴェル (本文案ハ前回「ク」ト ル トセハ貴下ニ何等対案アリヤ 文書断念方ヲ禀請スル 衝ノ為本件文書ヲ「ドロツプ」 ト回訓ヲ読上ケ実ハ 1 到底右形式ノモ ギー + バル」ニテ一切ヲ尽シ居 ヤ 」 ニモ述へ置キタ ト述ヘタルニ付最前モ ノ会談ノ際同 ノニモ モ見込無 = ケタル此 次第ニ 付 日 ヘル -」ヲ第二 貴我政府 ト尋 英案 案ニ同 同意 モア ŋ 所 + 1 ネ 際 8 就 本 N セ ル ヤ ノ X セ ト

第二二三号 貴見ノ如ク一切ノ場合ヲ「カヴアー」シ今更公文発送ヲ シ他方今日 修正公文案ハ兎モ角仏側ニ通報シ置キタルモ未タ回答無 於テモ受諾困難ナリト御来示ノ趣旨ニ基キ説明シ其ノ後 タルモ仏側要求ニ係ル (寺崎随伴)往電第二〇七号ニ関シテハ政府ノ承認ヲ 目下休暇中ノ「クレー 」確定セル次第ナルカ之ヲ更メテ熟読スルニ如 仏側態度ヲ尋ネタル処「クレーギ 見上申 潜水艦使用制限規則に関するプロセ・ヴェル ル案文につき交渉経緯報告並に右に関し意 レノ御来訪ニ依リ日英間ニハ 公文ノ件ハ同人試案ノ形式ノ下 有田外務大臣宛(電報) 在英国藤井臨時代理大使より ギー」ニ 出京 本口 $\boldsymbol{\nu}$ Ĺ F 「プロ ヲ 省 2 ハ日英合意案及 求 × 4月10日前着 4月9日夜発 セ 八 -ヴ エ 日 何 往 = ル モバ 得 訪 = 一、九日寺崎ヲシテ仏大使館「カンボン」参事官ヲ往訪 French objection to this method is made by the 方見解及従来ノ経緯ヲ述ヘ本件文書断念方ヲ申入レ Government before 1936 the Government of the シ之ヨリ タル処極メテ当惑ノ色ヲ示シ実ハ只今政府ヨリ回訓ニ接 ニ同意又「クレーギー」提案ノ如ク文書第三項ヲ ŀ ル ル ト 質 Republic 「クレ ーギ

ー」ニ通報スヘキカ右ハ日本修正案

シメ

我

will consider

itself

free

đ

Japanese

if no

ル

文書ヲ固執セハ伊モ之ニ同スヘシト答ヘタリ 英側ト 必要 言フヲ強ヒテ反対ノ必要無シト為スモノニテ結局日仏間 ニ大ナル意見無キヤニ見受ケラレ大体仏次第故仏カ フ依テ英側印象ニ依レハ仏側ハ本件文書ヲ固執スヘキ ノ話合ノ結果ニ英ハ勿論米、伊モ同意スヘシト 答へ更ニ伊ノ意向ニ付夫レト無ク尋ネタルニ伊 ヘク本件固執ノ張本ハ法律顧問 ニ於テハ在仏英国大使ト仏外務省ト交渉スル ì シタルニ「ク」ハ然リ日仏共ニ現在ノ見解ヲ固執ス シテハ之ヲ好マサルモ仏カ国内手続上必要ナ セサルヤニモ思考ス然レトモ予テ申上ケタ Basdevant ナル ノ外 信 い本件 スト ル ヘシ ,無力 本件 ŋ 通 ヤ 述 ŀ IJ

445

昭和

11年4月9

Ē

仏

伊、

米へ暗送セ

ij

対スヘキ

ヤ折返シ御回

電請

フ

No. 本文ハ「プロセベルバル」署名ノ際仏政府ヨリ日英米 政府ー Gaimudaijin, 345 (Betsuden) 送付セラルルモノナ Tokio J ト但シ案文ハ may still 1936.

Received, London, June June 19th, 20th, a.m., p.m.

劎 電

米、仏、 十七 セル 往電第一九七号末段ニテ申進シ置キ 件「プロセベルバル」署名ニ関スル権限付与ノ 仏当事国代表宛夫々送付セラルヘシト答ヘタリ我方代表本 考迄ニ御覧ニ供フト述ヘタリ尚本官ノ問ニ対シ本公文ハ在 シ居レリト 読シ日本側ノ回答ヲ要セス貴方御趣旨ニ副ヘル 最大限ノ考慮ヲ払ヒタルモノノ由 提示シ来レルカ右ハ仏側ト ノ「サジエスシヨン」ニ依ル修正文(別電第三四五号)ヲ モノニシテ直接仏以外ノ当事国ニ関係無キモ何等御参 日午後求ニ依リ「ク」ヲ往訪仏側ヨリ冒頭電所載「ク」 伊 へ暗送セリ 説明シ又別電第三四六号覚書ハ仏国側手続ヲ示 シテハ日本側御見解ニ副フヘ ニテ「ク」自身モ之ヲ熟 ノ /通ナリ 為 形式 念 モノト思考 い既 ク =

意的

態度ヲ謝シ且我方意

ノアル所

ハ充分了解 衝スヘシト

セ

IJ

仍

テ

右

答へ本官ヨリ

「ライン」ニテ「カムボン」ト折

難ニ

顧ミ復翰ヲ要セ

ル ム

コト ル

モ問題

1

書面ノ受理ヲ困難トスル次第ナリ

ŀ

テ国内手続上

十三日「ク」ヲ往訪御来示ノ次第ヲ申入

 ν

9

ル

処我方ノ

好

仏国カ一部批准ヲ為スコトニ必スシモ異議アルニアラサ

レ以上ニハ方法ナシト切言セリ依テ三谷ヨリ日本ト

・シテ

N ハ

貴電第七三号ニ 第二八三号

関シ

往電第二六六号ニ 第三四四号 伊 448 仏 ニ立タントスルモ 付テモ仏ノ同意ノモ ロセベルバ ,ノ態度ヲ質シタルニ海軍条約ニハ署名セサルモ本件 伊 昭 和 11 いて 仏国側修正文につきクレーギーとの会談につ 潜水艦使用制限に関するプロセ へ暗送セ 別 年 6 ル」ニハ 電 **Ď** IJ プ 大臣宛第三四五号 六月十九日在英国藤井臨時代理大使より有田外務 関 ц ノ 19 セ・ヴェ 署名スヘク又本件文書ノ 日 ナリト答 ノニ同意スヘク要スルニ仏ト 有田外務大臣宛(電報) 在英国藤井臨時代理大使より ル バ ヘタリ右不取 N に関する仏国側修正文 本 ロンドン 省 ン ・ヴェルバル 敢 6 月 20 文句、 6月19日後発 同 Ē 内容ニ ----前着 地位 ープ

5 会議脱退後における諸交渉

2

仏国トシテハ往翰ニ対シ承諾ヲ要求シタルモ 換断念方説得セシメタル処実ハ昨夕貴下御来訪ノ報ヲ受ク 十一日三谷ヲシテ 本件関係事務ヲ担当 キヲ要シ右ハ仏国政府トシテハ本件条約ノ批准ヲ議会ニ求 Etat ノ審議ヲ受クルニ至ルカ如キ場合ニモ一点ノ非 難 部批准ヲ為スカラニハ他ノ締約国ニ於テ右ニ異議ナキコ ルヤ寿府滞在中ノ「バドブアン」トモ電話ニテ協議シタ 仏国トシテハ最後迄譲歩シタルモノニシテ倫敦条約ノ ニ当リ絶対ニ必要ナリ又条約第二十二条ニ依リ加入ス ・ハ其ノ現調印国タル地位ニ顧ミ是亦不可能ナリ元来 ニスルヲ要シ他日 仲 裁 裁 判ニ繋属又 サル形式ニ迄譲歩シタル次第ニシテ之 (潜水艦使用制限ニ関ス セシメ御来示ノ趣旨ヲ以テ本件交 セ ル 連 日本側ノ御困 ル倫敦条約第 Conseil 盟 局 า ร + ŀ, 1 ル ___ 1 英 要トシ「プロセベル 447 テハ部分的批准従テ本件参加ハ結局困難ナ 国ニ異議ナキコトヲ明白ニスル ヲ承諾シタルモ重ネテ仏国トシテハ部分的批准 反駁シ更ニ「バドブアン」トモ協議反省方ヲ求メタル 「カバ acceptance 事情ヲ説明シ「プロ 昭和11 × Ø ー」シ他ニ文書ヲ必要トスル理由ナキニアラスヤト 潜 伊 【水艦使用制限 観測につい ルに対する伊国側の態度につきクレ 年5月 ~ ナル文句ハ仏国カ部分的批准ヲ為スコ 郵報 13 セ バ τ 日 IJ ヘル」 案ノ 規則に関するプロセ・ヴェ セ 有田外務大臣宛在英国藤井臨時台 べ ル バ ル 文句ノ如キ漠然タル コトヲ国内手続上絶対ニ必 亡中 本口 ンド 宛(電報)時代理大使より confirm 省 \sim リト述へ居 5月14日前着 5月13日後発 ¥ ニ関シ関係 ル トヲ モ their 処之 ノ タ モ IJ =

ヲ明白

力

ル

・ボンクール」ヲ往訪

四編ニ関スル件) 貴電第六五号ニ関シ 第二〇〇号

556

4 be subject to certain purely verbal amendments ミト

year. this on April 22nd 1930 which will remain in force on.....Part IV of Naval Treaty signed in London that Government of Republic propose to ratify honour request You to inform Your Government lic all Powers to rules for employment of submarines respect; in consequence of this declaration have Naval Treaty 1930 which Government of Repubin time of war set out in Part IV of London expressed himself ence 1935 without any time limit whilst the other At opening session of London Naval Conferhave for Treaty expire representative of French Republic their in favour on 31st December part always intended to of accession parts of of this of

Fujii

ル我方「ノー

٢

べ

ル

バ

ル

写夫々二部宛別添ノ

^ 通送付

ス

~

一、覚書
いべキ仏政府書翰案

_

「プロセ

べ

N

バ

ル

署名ニ

際シ日英米政府宛送付セ

ラ

記

449 昭和11年6月29日 有田外務大臣宛(電報)在英国吉田大使より

潜水艦使用制限規則に関するプロセ・ヴェ ル

ルにつきクレ ーギーとの会談について

バ

本 ロンドン 省 6 月 30 6月29日後発 5日前着

第三六五 另

貴電第一一四号ニ関

シ

ハ

米

往電第三六四号会談ノ際藤井ノ質 セルニ対シ「ク」

取ルヘキコトヲ併セ注意シ置ケルニ対シ「ク」ハ之ヲ首肯 シト述へ又右「プ」署名方御裁可ニハ我方手続上若干手間 伊トモ「プロセベルバル」ニモ仏公文案ニモ異議ナカルヘ = セラルル所存ナリヤト質セルニ「ク」ハ英側論拠ハ近ク詳細 ハ然リトスル所貴方ニテハ右ヲ如何ニ「テーク、アツプ」 ス」級艦其ノ他ニ付英ハ右ヲ条約違反ナラストシ我方ニテ トナルモノト解シ居レリト答へ更ニ 藤井 ヨ リ ノ倫敦条約第四編批准及其ノ寄託最後ニ「プ」署名ノ段取 シ同人ノ関スル限リ先ツ仏(伊)ヨリ公文来リ次テ仏(伊) 認メ貴方ニ御送付シ其ノ上討議致度シト述ヘタ 「ホーキン ル趣ナリ

		Фин	1/1/										
海軍条約不加入ニ関スル我方回答文送付ノ件倫敦条約第四編加入ニ関スル仏側公文並ニ新	外務大臣 有田 八郎殿	特命全権大使 吉田 茂	在英	昭和十一年六月二十九日	機密第四四二号	我が方回答文送付について	バル仏国修正文及び海軍条約不加入に関する	潜水艦使用制限規則に関するプロセ・ヴェル	45 昭和11年6月29日 有田外務大臣宛	米、仏、伊へ暗送セリ	コトアラハ折返シ御回示請フ	ルルモ事情右ノ如クナルニ付従来御来示ノ外更ニ心得置ク	就テハ貴電第九八号前段深入ヲ避クル御趣旨ナリト解セラ

, h 'n ers with a view to their accession to said rules in Part IV of the said Treaty to the other possible communicate rules as to action of subratified by all the signatories it has not tation and Reduction of Naval Armaments signed marines with regard to merchant ships contained 新海軍条約不加入ニ関スル我方回答文 Whereas owing to fact that Treaty for 「プロセベルバ London on ル April 22nd 1930 has not Limi-Powbeen been

and And whereas Governments of French Republic Kingdom of Italy desire ť confirm ac-

as contemplated in article 25 of the said Treaty;

倫敦条約第四編潜水艦ニ関スル規定適用国拡張 ニ

関ス

ル

プロ

セ

べ

N バ

ル

関係書類写及新海軍条約不加入ニ関ス

対スル潜水艦ノ行動ニ関スル規則ヲ右条約 依リ右条約第四編ニ掲 儀至急御 ノ後ニ on 号 公文中 ムキ様 瑣末ナ 決定 口 雷 九 モ 452 第四七二号 一、往電第 -; 二日ノ 促越 尚 確 去ル八日近ク好意的回答ア 外務省ヨリ十四日付ヲ以テ仏側公文発送ハ キ ス仏ハ発送日取ヲ十五日ト ノ ツ為英提案ニ基キ 答ニ 尚同日付ヲ以テ往電第三四一号ニ 間伊ノ回答ナク他方右公文発送ヲ此ノ上延期 昭 和 11 モ外務省係官ハ 「プロセベル セ バ 潜水艦使用 、頃ナル 接 ル ル スセサル 和四五九 :署名の = 年 8 付何分 ヘシト 亰 制限 バ 号 日 由申越セリ 15 非公式ニ目 2 ル」 署名日 十日ヨリ十五日ニ延期セラレ = 冣 日 儀御回 関 内定につい 申述へ居リタ 規則に関するプロセ・ 有田外務大臣宛 シ 電 ル 決定セリ伊 「取ニ 請 下 \sim キ フ 1 τ 本 本 、ル趣ナ П 処 関 旨 ンドン 九月七 「通報ア 関 シ確定次第 (電報) 創態度 ス 省 省 ル IJ 8月7日前着 伊 ij ヴ 我方 Η 8月16日前着 8月15日後発 及ニ 関 \$ 侧 Э т 回答 電報 セシ 回 IJ ル タ ル ĩ +力 2 答 メ得 コヲ俟 F テ モ 其 未 督 タ ハ 561

第四五九号

請フ 月成 批准 公文送付ア 件手続ヲ承認取付方電報セ ŀ their acceptance n have confirmed their acceptance Government of Republic propose to ratify = シ ノ ル 電第一九八号「プロセベルバル ……ノ代 コト 得 修正ニ異議ナク日本側ヨリ反対ノ旨通報ナキ限リ英同様 . シ 第四編批 「確定日ハ ル 度キ旨申越セル趣ニテ英ニ関スル限リ右ノ如キ ~ キ \sim ト承知スヘシ尚伊ニ関シテハ在羅馬大使ヲシテ右本 ク早ク リニ 旨通報越 ル |准ノ意向表明方ノ「ノート」ヲ発送スヘク尤 ト共 未定ナルヲ以テ仏ハ往電第三四五 in the 一日付ヲ以テ仏側ハ八月十日 /本件 ハニ関係国 セ リ就 プ course of next month ヲ挿入シ往 テ セベ ハ 大使館及自治領ノ都合良 ルヲ以テ仏伊政府ヨリ関係国宛 右 二第四項 ル = 関 バル $\hat{\boldsymbol{v}}$ ・何分ノ 」 署名ノ日取ヲ desire to confirm 在巴里関係国代表

外務省ヨリ五 往電第三四四号ニ関 2

5 会議脱退後における諸交渉

仏

伊

米

 \sim

転

電

セ

1]

シテ之ニ通報スルコ 第二十五条ニ予見 セ ラル ト能ハサリシニ依り N 右規則 ~ ノ他 玉 1 加 入 イヲ目 的 ŀ

タル右規則 又仏蘭西共和国及伊太利王国ノ政府カ右条 ノ受諾ヲ確認 セント欲シ居ルニ依 約 ŋ 1 署 名 シ 結 果

ヲ希望シ居ル ル 又右条約ノ署名国カ成ルヘク多数 ル規則ヲ国際法上ノ確立 二依 IJ セ ル 規則ト ノ国カ右第四編 シテ受諾 ス \sim = 揭 キ Э ケ F ラ

as established rules of international law;

Undersigned, duly authorized representatives

should accept rules

contained in said

Part IV possible

that as

great

a number

of states

as

of said treaty;

And whereas

signatories

of

said treaty desire

ceptance of said rules resulting

from signature

之ニ要請 右条約ノ署名国ニ 的ニ且無期限ニテ加入セン 合王国ニ於ケル皇帝陛下ノ 各自ノ政府ノ正当ノ委任 ス 非サ î ---ロヲ受ケ 切 ノ 政府 コト 9 国 Ż ニ委任シ別添右規 > 招請 1 ル 政府 代 ト共ニ右規則 表 8 ニ通報セ ル下名 $\boldsymbol{\nu}$ 顚 ハ コ ヲ = 玆 ኑ 直 確 = 連 定 ヲ =

編 注 以下の書 類見当らず。

昭和11年8 可 月 6 日 有田外務大臣宛在英国吉田大使 (電報)

451

バ 潜水艦使用制限規則に関するプロセ ルに対する仏国の意向について • ヴ I ル

ロンド $\boldsymbol{\mathcal{V}}$ 8 月6日後発

ケラル

ル

商船ニ

依

リテハ N

批准セラレサリシノ事実ニ

タ

海軍軍備ノ制限及縮少ニ

関スル

條約

力

_____ 切 於テ署名

ノ署名国

= V

千九百三十年四月二十二日

-1

ンド

ンニョ

セ

ラ

(右仮訳)

an

invitation

to

accede

thereto

definitely

and

which are not signatories

of said Treaty

with

annexed hereto

ð

Governments of

all the

: States

Kingdom forthwith communicate said rules as and request his Majesty's Government in United of their respective Governments hereby authorize

without limit of time

米、仏、伊へ暗送セリ	54 召印11年9月8日 在英国吉田大使より
453 昭和11年9月7日 有田外務大臣宛(電報)	伊国を除く関係国間で潜
埋大吏の内括こついて 伊国の海軍条約未署名の事情に関する英国代	の希望並びにこれに対する措置振りについて関するフロセ・ウョルハルに署名したき英国
本 省 9月8日前着 ローマ 9月7日後発	本 省 9月9日前着ロンドン 9月8日後発
	第五〇二号
六日英代理大使ノ内話ニ依レハ伊ハ嘗テ制裁及英地中海艦	外務省ヨリ七日付ヲ以テ潜水艦 protocol ニ対スル態度未
隊集中ヲ理由トシテ海軍条約ノ署名ヲ拒ミタルニ右ノ理由	不明ナルニ付在伊英代理大使ニ右署名ヲ九月以後ニ
消滅セル今日ト雖依然署名セサルニ対シ英ハ近ク督促スル	延スルハ面白カラスト認ムルコト及此ノ際署名ヲ都合悪シ
考ナルモ土ノ海峡防備及英埃及同盟ノ成立ニ依リ東地中海	ト為スニ於テハ英政府ハ強ヒテ伊政府ニ強要セス伊ヲ除ク
ニ於ケル伊ノ立場カ著シク困難トナレルニ依リ伊当局ハ内	関係国間ニ九月中ニ署名ヲ了シ其ノ後伊ノ都合好キ際本件
	規則ヲ受諾スルコトトシテハ如何ト玆十日以内ニ申入レシ
餌ニ倫敦条約ノ署名ヲ利用セントノ下心ヲ有ス	メ右手続ニ対スル伊ノ意向確メ方電訓セル処伊カ右ニ異議
子 アヨー リ	於テハ本月中関係国ニ都合好キト
英、仏、米へ谙送セリ	7 And vibarana it in desired that 、多日女ぜ7 ヨー馰トトシス proces-verbal 策匹項ハ仏ノミニ言及シ策五項
	ル貴見戎ルヘク速ニ承リ度シト申越セルニ付何分ノ儀 イコシリニン
返シ御回示ヲ請フ	欣快此ノ上ナキモ不幸ニシテ本月中調印ノ同意ヲ得スハ関
伊へ転電シ米、仏へ暗送セリ	印諸国ノ委任ニ基キ
55 昭和1年9月11日 在イタリア杉村大使より	策/ F売りぬレ/ Flátキニミリレ/ / 然/ 共英国女守/ 北ヨリ他ノ諸国ニ加入方一般的ニ勧奨スル際伊ニ対シテモ同
潜水艦使用制限規則に	加 ヲ
につき英国代理大使の内話報告	ル由ニテ玆一週乃至十日以内ニハ何等カノ回答アルヘク其
	martine block for the state of the state o
:	スヘシトノ「クノーギー一内活)ニ関シ其処迄話ハ進ミ苦(古芸多貴ラ目多皇幸多二ノミチ雀星(丘ノイ・魚長・云長
発 - 貴 [大 [サリシモノト思考スル旨殊ニ本件ノ如キ明白ナル
十日英代理大使ノ松宮ニ対スル内話左ノ通	対シ何故ニ伊国政府ハ態度表明ヲ躊躇シ居ルヤ全ク其ノ真
本件ニ関シテハ約六週間前ヨリ伊国政府ト折衝シ其ノ態度	意ヲ捕捉スルニ苦シム(伊海軍当局ニハ異存ナキカ如シト
表明方屢督促セルモ常ニ考量中ノ一点張ニテ要領ヲ得サリ	言フ)旨語レリ御参考迄
本国政府ヨリ訓令ニ接シ本日政務局長ト会見西	英へ転電シ仏へ暗送セリ
為ヲ排斥スル潜水艦条項ニ大国カ参加スルハ欧州政局ニ齎牙内乱ニ於テ非人道的戦闘ノ行ハレ居ル此ノ際非人道的利	45 昭和11年9月15日 有田外務大臣宛(電報)
ス道義的効果少カラサルヘキヲ以テ同条項カ比率問題等政	海軍条約に伊国を加盟せしめる件に関するア
- ニージーズ - 周丁戸加金ノニノキ国ノ 念口7 身性質ヲ帯ヒサル点ニモ顧ミ倫敦条約ノ現調印国トシ	レン係官の談話について
プロセ・ベルバル」 調印方観奨シ若シ伊国ノ参加ヲ得ハ	

5 会議脱退後における諸交渉

本 省 9月15日後着ロンドン 9月15日後発

第五一三号

十四日寺崎ヲシテ係官 Allen ヲ往訪英側ハ九月中旬署名方 ern Department カ伊ノ参加ヲ希望セシ点ヲ参酌シ先 般 ヲ固執スル次第ナリヤト質サシメタル処同人ハ実ハ之以上 貴電第一八五号ニ関シ 加 来示ノ次第ヲ申入レタルニ未タ仏米ヨリ何等回答ナキモ冑 モ必スシモ九月ヲ固執スルモノニハアラスト了解スト述へ 内報セシ内容ノ訓電(往電第五〇二号)トナレル次第ナル カラストノ議次第ニ強ク 唯伊関係事項主管部タル 遷延スルハ如何ニモ伊ニ気兼スルカ如キ感触ヲ与ヘテ面白 分研究スヘシトノミニテ確答ヲ与ヘサリシ由ナリ何 ハ 方御趣旨ハ能ク了解セリ在伊代理大使報告ニ依レハ同代理 至リテ伊ノ参加躊躇等ハ不可解ナリト指摘シタル上貴電御 ヘシト為シ来レルカ故右趣旨ニテ総テ手配シ来レルニ今ニ タルニ依リ先ツ「ク」カ従来仏側同意ノ案ニハ伊亦同意ス 〔ノ一表現トシテ可ナル所以ヲ説キ参加方ヲ勧誘セシモ充 対伊制裁終了ノ今日本件署名ヲ了スルハ伊 ノ欧州協力参 South- $\dot{\nu}$ ニ セ

> 米 地ナク今後共出来得ル限リ伊ノ参加実現方ニ努ムヘシ但 ラスト思考スト述ヘタル 際限ナク伊ニ ヨ署名国ヲ伊ヲ含ム五国トス 仏 伊へ暗送セ dependent ナル ŋ 趣ナリ N カ如キ感ヲ与フル ノ可ナルハ主義上 ハ面白 異論ノ余 力 2 564

457昭和11年10月3日 有田外務大臣宛(電報)

バルに我が方署名の日取につき英国側より問潜水艦使用制限規則に関するプロセ・ヴェル

合せについて

別 電 十月三日在英国吉田大使より有田外務大臣宛第五

プロセ・ヴェルバル

本 省 10月4日前着ロンドン 10月3日後発

第五四〇号

十五日付在仏帝国大使宛仏政府通告ト同趣旨ト解セラル)October ニ倫敦条約第四編批准ノ意向ナル旨通告(八月十月二日付ヲ以テ英外務省ヨリ伊太利政府ハ early on

リ何分ノ儀回電アリタシ於テ署名シ得ル日取ヲ成ルヘク早目ニ承知致度シト申越セ下ニ於ケル「プロセベルバル」ニ署名方取計ヒ度ク本使ニシ来レルニ依リ別電(仏文必要ナレハ追電スヘシ)形式ノ

米、仏、伊へ暗送セリ

(別 電)

London, Oct. 3rd p.m. Received, Oct. 4th a.m., 1936.

Gaimudaijin, Tokio.

No. 541 (Betsuden)

Procés-verbal

Whereas the Treaty for the Limitation and Reduction of Naval Armemants signed in London on the 22nd April, 1930, has not been ratified by all the signatories;

and whereas the said Treaty will cease to be in force after the 31st December, 1936, with the exception of Part IV thereof, which sets forth rules as to the action of submarines with regard

> to merchantships as being established rules of International Law, and remains in force without limit of time;

and whereas the last paragraph of Article 22 in the said Part IV states that the High Contracting Parties invite all other Powers to express their assent to the said rules;

and whereas the Governments of the French Republic and the Kingdom of Italy have confirmed their acceptance of the said rules resulting from the signature of the said Treaty;

and whereas all the signatories of the said Treaty desire that as great number of Powers as possible should accept the rules contained in the said Part IV as established rules of International Law;

The undersigned, representatives of their respective Government, bearing in mind said Article 22 of the Treaty. Thereby request the Gov-

time.	Signed in London, the day of nineteen
Rules. "(1) In their action with regard to	hundred and thirty-six.
merchantships, submarines must conform to the	For the Government of United States of Amer-
rules of International Law to which surface	ica:
vessels are subject.	For the Government of the Commonwealth
(2) particular, except in case of persistent	of Australia:
being duly summor	For the Government of Canada:
active resistance to visitor search, a warship,	For the Government of the French Republic:
whether surface vessel or submarine, may not	For the Government of the United Kingdom
sink or render incapable of navigation a mer-	of Great Britain and Northern Ireland:
	For the Government of India:
ı a p	For the Government of the Irish Free State:
safety. For this purpose the ship's boats are	For the Government of the Kingdom of Italy:
For the Government of Japan: For the Government of New Zealand:	付 記 一九三八年十二月一日現在の潜水艦使用制限規則
For the Government of the Union of South Africa:	本 省 11月26日前着ベルリン 11月25日後発
Yoshida	在英独大使「フォン・リツペントロツプーハ二十三日改府第二六九号
昭和11年11月6日(有田外務大臣宛(電報)) 在英国吉田大使より	関スレ現宦=加入ン台、司日ヨノ育めス英外相ニ覚書ヲ提出シ独政府ハ倫敦海軍
「水艦使用制限規則	ル旨ノ政府公表アリタリ
ロンドン 11月6日後発	開い本件加入い
六〇七号	州ノ平和安定ニー歩ヲ進メタルモノナ
ニ転電シ仏、伊へ郵送セリ水艦「プロセベルバル」六日署名ヲ了セリ	A. 10
昭和11 年11 月25 日 在	一年(一九三六年)十一月六日倫敦ニ於テ調印セラレタル本件潜水艦使用制限規則ニ各国ノ参加勧誘方ニ関シ昭和十(村 記)
独国政府の潜水艦使用制限規則加入について	月 八

board." vessel which is in a position to the proximity of land, or the presence of another in the existing sea and weather conditions, by safety of the passengers and crew is assured, not regarded as a place of safety unless the take them on

tories

accede thereto definitely and without limit of

of the said Treaty, with an invitation to

ernment of all the Powers which are not signa-

the said rules, as annexed hereto, to the

Gov-

and Northern Ireland forthwith to communicate ernment of the United Kingdom of Great Britain

5 会議脱退後における諸交渉

459

米 潜 第

458

566

一八、「アフガニスタン」	一七、諾威	一六、「グワテマラ」	一五、丁抹	一四、墺太利	一三、「ヴァティカン」市	<u> </u> 、「ユーゴー・スラビ	ーー、「アルバニア」	一〇、勃牙利	九、巴奈馬	八、芬蘭	七、 瑞典	六、「ネパール」	五、「ハイチ」	四、 希臘	三、 蘇連邦	二、 白耳義	一、 独逸	国 名 参
同五、二五	同五、二一	同四、二一(協賛ヲ要ス)	同四、二一	同四、一	1 同三、一六	ア」同三、一五	同三、三	同三、一	同二、二六	同二、一八	同二、一五	同一、二七	同一、二三	一九三七、一、一一	同一二、二七	同一二、二三		参加ノ日付(緑セル日付ヲ掲ケタリ)を加ノ日付(参加ノ旨ヲ英国政府へ通)(参加ノ日付不明ノ場合ハ)
三七、	三六、	三五、	三四、		1111,) I E	ΞQ,	二九、	二八	二七、	二六、	二五、	二四、	1111,	1111, 3		ΞQ,	一 九
「グ	「ラ	暹羅	墨	伯	7	洪	ーサ	和蘭	智	瑞	Г म	波蘭			伯	埃		秘 露
ワテマラ」	トヴィア」	淮	墨西哥	伯剌西爾	「イラク」	洪牙利	サルヴァドル」	阑	智恵古	瑞西	エストニア」	阗	「コスタリカ」	土耳其	伯剌西爾	埃及	「サウデイ・アラビア」	μa

調印国タル日英米仏伊ヲ加へ合計四十ケ国ナリ昭和十三年十二月一日現在本件規則受諾国数ハ参加国ニ原